

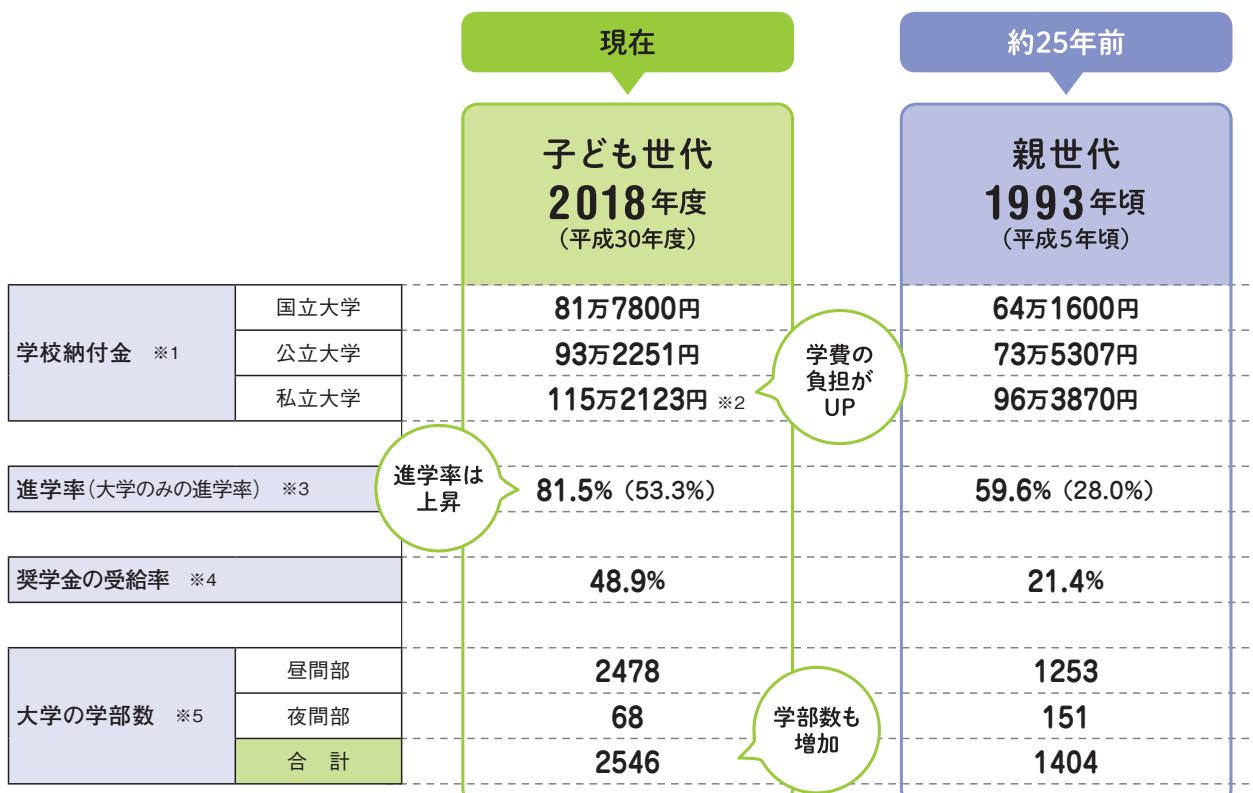


文系・理系、国立・私立、自宅・下宿…

いつ、何に、いくらかかる? 進学費用

「進学について真剣に考え始めるのは、高3になってから…」
そう思っていたら、間際になって慌てることも少なくありません。
保護者が高校生の頃と現在では、卒業後の進学率や学校・学部の選択肢、
進学にかかる費用にも大きな違いがあるからです。子どもの希望を
叶えるためにも、保護者は進学費用についての理解を深め、
どのように準備するかを早めに検討していきましょう。

構成・取材・文／インタークレア（光田洋子、三浦美紀） イラスト／もとき理川



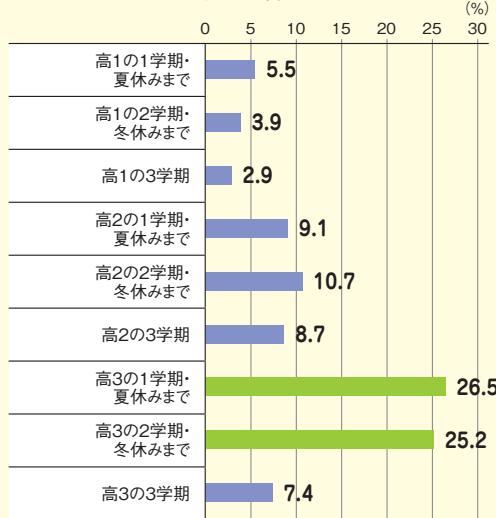
くわしくは次ページへ
上のような違いを理解して
家庭で必要な準備の仕方を考えましょう



高1のときから進学情報をチェックし現状と今後の進学情報を備えを始めたい



Q 高校入学後、具体的な進路、進学先についてあなた自身の希望が固まったのは、いつ頃でしたか？



※「前期」の回答は「1学期・夏休みまで」に、「後期」の回答は「3学期」として集計した。

Q 高校卒業後の進学費用について、保護者から何か言われたり、話し合ったりしましたか？



例えば…

- 大学と専門学校の学費の違い(を確認して話し合った)
- (親が)自分の頃と比べて学費が高いと言った
- 私立大学は経済的に無理だと言われた
- 学費が安いから国公立大学にしてほしいと言われた
- 私立大学なら自宅から通える範囲にしてほしいと言われた
- 奨学金を借りるか借りないかの話をした

※※上2つのアンケートは、本誌編集部が大学生・専門学校生・浪人生にwebでアンケートを実施(有効回答者数310名)。実施期間:2017年12月20日~22日(調査協力:マクロミル)。

進学の状況は昔と異なる
早いうちから
親の意識改革が必要

40代の保護者が高校を卒業した25年くらい前と今では、高校生の進学事情は大きく異なります。前ページで紹介したように、進学率は8割を超え、大学等に納めるお金も大幅に値上がりしています。国公立大学の学費は平均25%以上アップし、私立大学との差が縮まっています。一方、私立大学も学費以外に納めるお金が多くなり、専

門学校の費用も学校や専攻によつては数倍の開きがあります。

大学・専門学校の数も昔より増

え、学部や専攻も細かく多様化

しているため、子どもの志向や就職を考え、保護者が気軽に助言できる時代ではありません。第一子などが初めて進学するご家庭では、進学先選びにも親子で迷うことが多くなるかもしれません。

まず保護者は自分の経験が必ずしも通用しないことを知り、今の高校生が置かれた状況や環境をきちんと把握することが重要です。

進学資金の準備には幅広く情報を集め家庭で話し合うことが大事

左の調査では、進路や進学先について自分の希望が固まつたのは高3のときだったという学生が多く、

進学費用についても保護者と話し合った人は半数以下といふことがわかれました。しかし、子どもの希望が固まってから進学費用を調べ、準備するのでは間に合わないこともあります。

進学するには大学等の学費だけでなく、高校在学中の教育費や受

験にかかる費用、生活費の仕送りなど、予想以上の負担が生じることもあります。家庭でどこまで支えられるのか、進学前後に必要な費用を含めて幅広く情報を集め、親子で話し合っていきましょう。

直近の情報をもとに、教育資金の準備方法を

具体的に考えていく

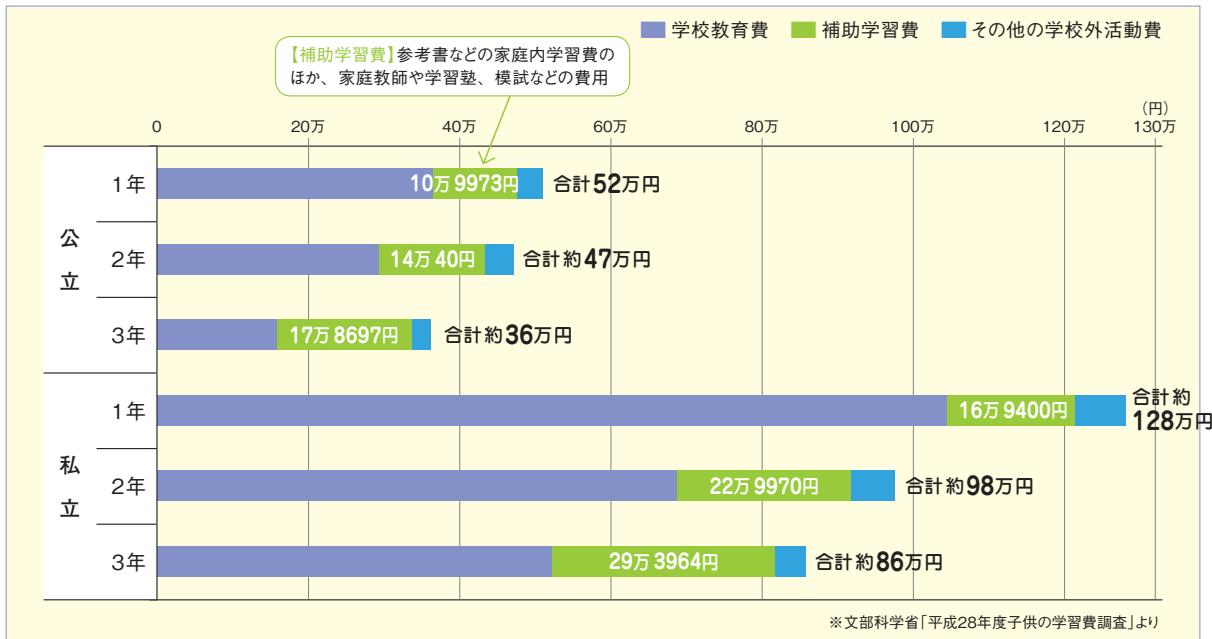
大学の入試方法の見直しや、奨学金の種類や条件が変わるなど、この数年は高等教育に関わる制度も過渡期を迎えていきます。それに伴い、進学に必要な費用なども変わってくるかもしれません。

ファイナンシャル・プランナーが高校などで奨学金の説明を行い、進学費用の相談に応じる「スカラシップ・アドバイザー制度」も始まりました。高校やPTAなどの要請に応じ、日本学生支援機構がアドバイザーを派遣してくれます。こうした機会も活用し、最新の正しい情報をもとに具体的な準備を始めることが大切。正しい知識と情報があれば、費用の不安を軽くする解決策もみつかります。

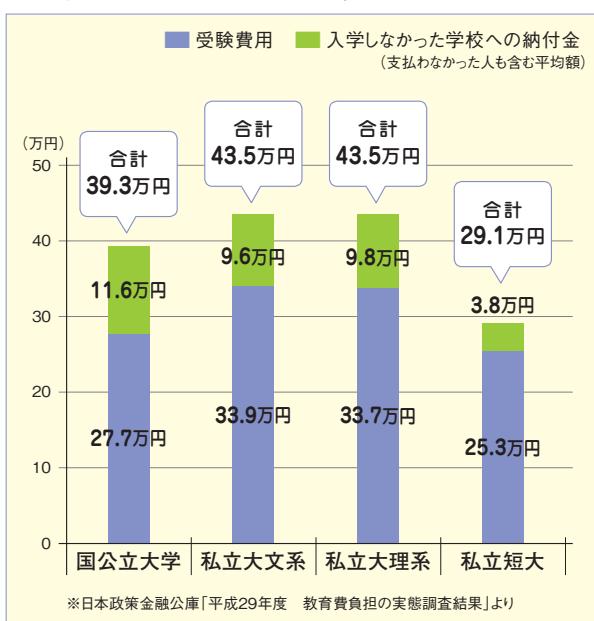


高校時代に必要となるお金

●高校1~3年でかかる教育費



●進学先別 受験にかかる平均費用



上の調査の受験費用には、受験した学校すべての検定料のほか、受験のための交通費・宿泊費も含まれる。センター試験を受ける場合、申し込み時のほか、受験する大学ごとの検定料が必要。国公立大学の希望者は私立併願で受験する人が大半で、私立大学の一般入試はネット出願や複数学部への同時出願で検定料が割引になることが多い。ただし、結果的に複数校・学部の受験で費用は高めになる。

参考

● 模試費用の一例

模試受験料	4700円～5300円
リスニング機器のレンタル料	1100円
答案等の返却料	500円

- 大学入学共通テストの英語で導入が検討されている民間検定試験の一例

英検® (実用英語技能検定)	1級	8400円
	準1級	6900円
	2級	5800円(準会場5400円)
TOEIC® Listening & Reading Test		5725円
TOEIC® Speaking & Writing Tests		1万260円

● 検定料の例

検定料		
推薦・AO入試	国立大学	1万7000円程度
	私立大学	3万5000円程度
大学入試センター試験 (申し込み時)	3教科以上	1万8000円
	2教科以下	1万2000円
国立大学	一般入試	1万7000円程度
私立大学	センター利用入試	1万~2万5000円程度
	一般入試	3万5000円程度

センター試験(3教科以上)の申し込みと、
私立大学を一般入試などで
私大のセンター利用入試 1万8000円×3回
一般入試 3万5000円×5回で

合計 24万3000円 । 交通費、宿泊費など

由中研院計量中心、檢定科、物理組共同完成。

学料を合わせて40万円以上になることもあります（上の左図参照）。ちなみに2020年度の入試から、民間の英語検定が必須になる大学が増えるため、その受験費用も負担に。進学までにはこうした費用が生じることを覚悟して、家計の見直しや準備が必要です。

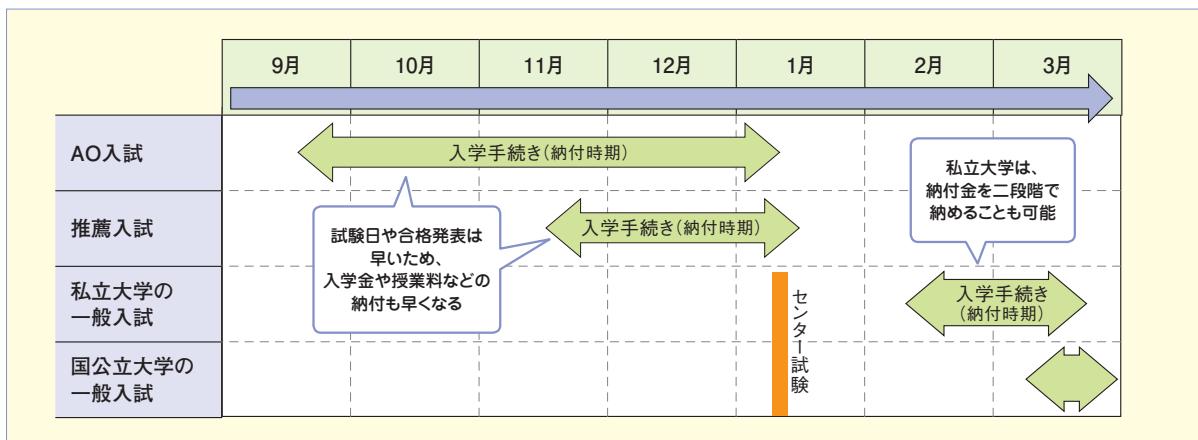
高校の授業料は、高等学校等就学支援金で負担は若干軽減しています。しかし、家庭での補助學習費や部活などにかかる活動費を合わせれば、高校時代にかかる教育費はけつして軽くはありません。

特に、上岡のとおり、塾代などの補助學習費は学年が進むほど出費が増えるのが一般的。高3になると全国規模の模試を複数回受けけると学校見学でオーブンキャンパスに参加したり、受験用の教材を購入したりと出費は増大。

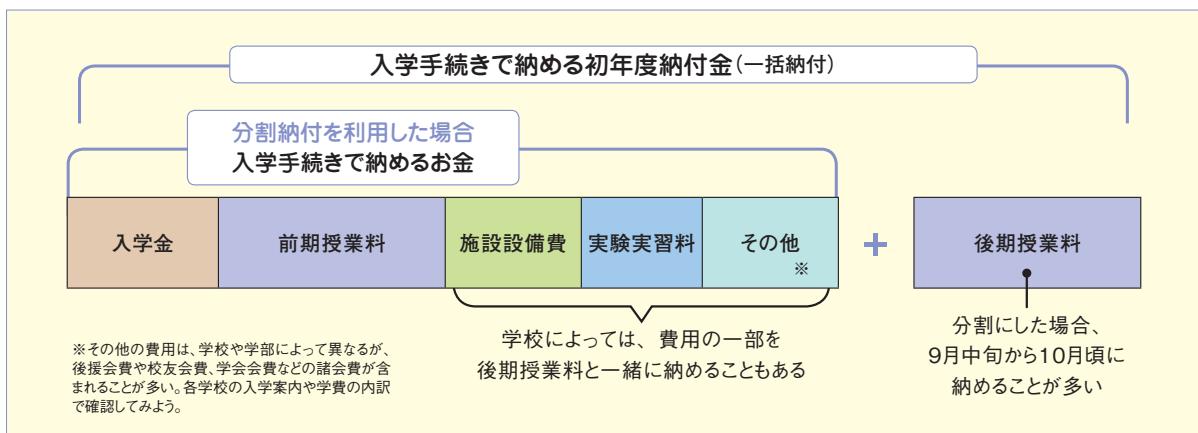
進学までには補助学習費や模試、受験費用も必要に

進学先によってかかるお金

●初年度納付金を納める時期



●初年度納付金の内訳



国公立か私立か、学部でも
学校に納めるお金は大違い

進学する大学や学部、学校によつて、どれくらい費用がかかるのか、いつ頃支払うのかをあらかじめ知つておくことは重要です。子どものが希望が決まっていくなくても、だいたいの目安がわかれれば、早めに準備を始めることができます。まずは左ページの図で、大学の種類や学部ごと、専門学校の系統別の平均額を見てみましょう。

いずれも年間にかかる費用で、初年度は入学料を含めた金額です。国公立大学の場合、文系・理系などの学部による違いはなく、年間にかかる費用はほぼ同程度です。

しかし、私立大学では学部系統による違いが大きく、最も負担がない文系でも年間100万円。初年度は入学料を含めて125万円で、4年間の合計は428万円です。理系、芸術系はもっと高く、4年間で600万円前後。薬学系や医・歯学系は年間費用も高く、修学期間は6年間になります。

一方、短大の年間費用は私立文系で、4年間の合計は428万円です。理系、芸術系はもっと高く、4年間で600万円前後。薬学系や医・歯学系は年間費用も高く、修学期間は6年間になります。

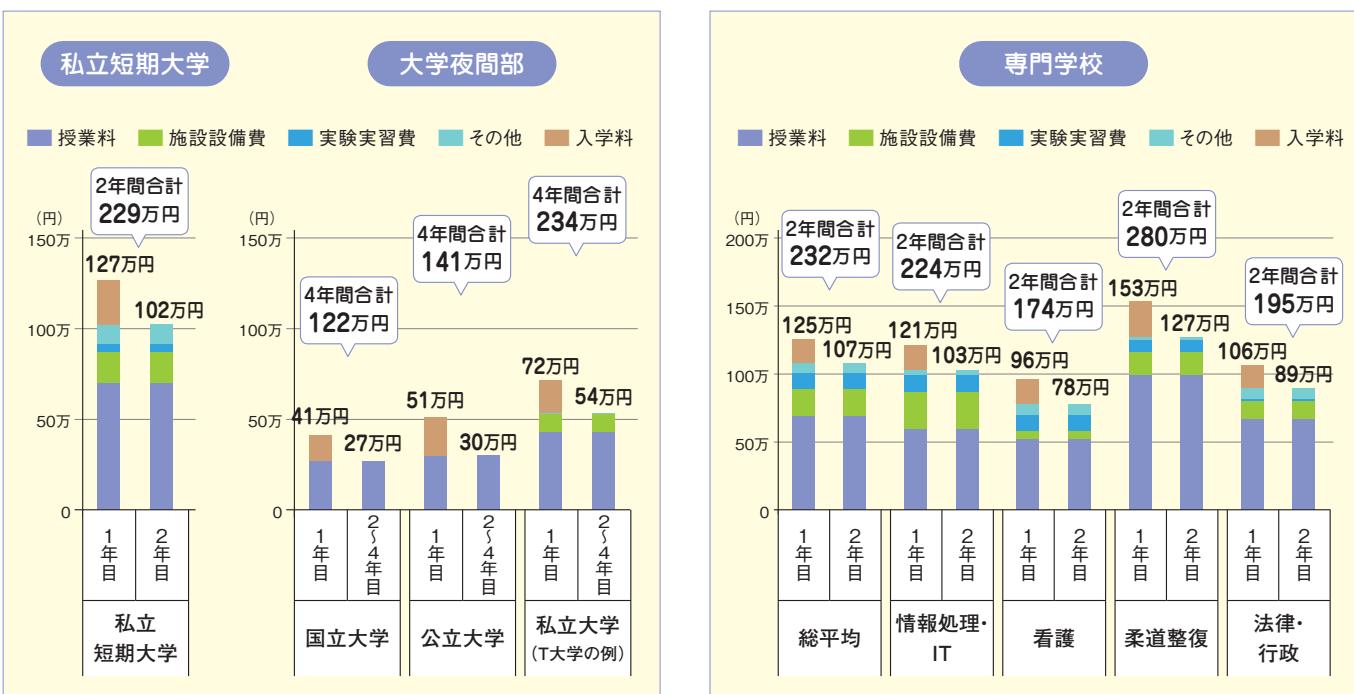
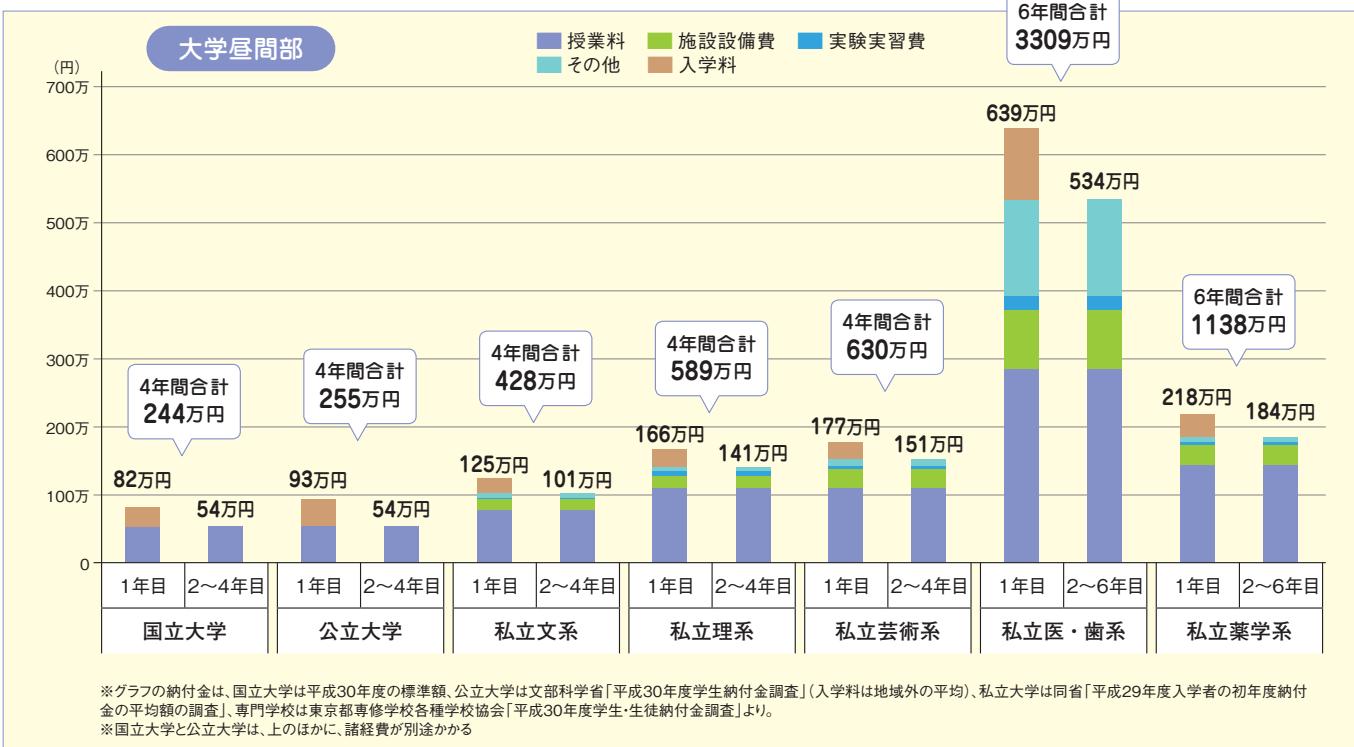
入学手続きの期限は入試方法に

初年度に納めるお金は高3の秋までに準備

在学中の合計額で見ると負担は重くなりますが、各年の納付金は年度初めに納めることになります。ただし、初年度納付金だけは合格発表後、1～2週間のあいだの決められた期限までに、入学手続きを行なう際に納めるのがポイントです。



●進学先別の学校納付金の平均(年間費用)



私立大学は一段階納付を利用できることも、私立大学の手続きでは、入学金とそれ以外の納付金を、2回に分けて納める二段階納付を利用する方法もあります。手続き期限の早い大学は入学金だけ納め、他校の合否を待ってから、残りの納付金を納める方法です。納めた入学会は戻つきませんが、授業料などの二重払いを避けられます。進学費用に不安がある場合、夜間部や二部を検討したり、奨学金を利用する方法もあります。

よって異なり、最も早いのはAO入試で、早い学校では高三の9月下旬に手続きが必要なことも。推薦入試も11月には合格が決まり、年内に納めるケースが多いようです。一般入試の場合、受験日が早い公立は3月下旬から3月半ば。私立は2月下旬から3月半ば。国公立は3月半ばから下旬です。初年度納付金には入学金と授業料のほか、私大や専門学校は右図のような費用も含まれます。このうち授業料は後期の分を後で納めることも可能ですが、それ以外は入学手続きまでに、できれば高三の秋までに準備しておくと安心です。

足りなければ、補う方法を考えよう



●進学資金をつくるときの考え方

STEP

1 日々の家計や貯蓄から準備

大学等への進学にはまとまった資金が必要なため、幼少時から積立貯蓄やこども保険などで準備している家庭がほとんど。そうした資金をベースにして、足りない分は毎月の家計やボーナスから取り分けて、進学資金に充てる。まとまった貯蓄がない場合、

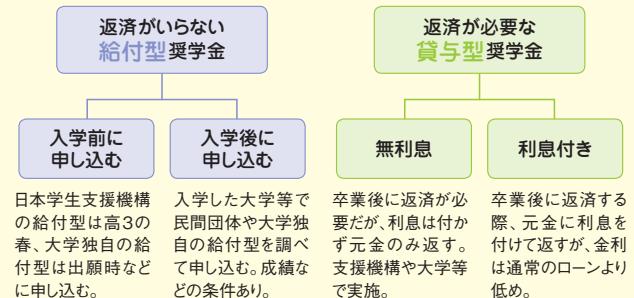
※2020年度から導入予定の高等教育無償化では、低所得世帯に対して大学・専門学校等の入学金・授業料が減免される。年収380万円未満の世帯に3段階で支援し、対象者には給付型奨学金も支給される予定。資金計画にも影響するので、詳細は決定後に確認を。

STEP

2 足りない分は奨学金を検討

2年目以降の学費や、自宅外通学での生活費など、準備した貯蓄や家計からの捻出では足りない場合、奨学金を検討しよう。奨学金にもさまざまなタイプがあり、給付型を利用できれば学費の負担は軽減し、本人の返済負担もない。給付型の受給が難しい場合は貸与型を申し込む。貸与型でも卒業後の返済は教育ローンより負担が軽いことが多い。

●奨学金は大きく分けて2つある



STEP

3 それでも不足するなら 教育ローン

在学中に家計が厳しくなったり、初年度納付金が足りないときは、教育ローンを利用する手もある。奨学金は子どもが利用し、貸与型も子どもが返すが、教育ローンは収入のある親が借りて親が返すことや、借りた翌月から利息が発生する点に注意が必要(在学中は元金の据え置きは可能)。審査から振り込みまで多少の時間がかかるので、必要な時期を考えて早めに申し込む(P64を参照)。



**必要な進学費用を調べて
用意できる金額をチェック**

大学等へ進むための教育資金は、

費を納める時期まで、結構時間があります。毎月の積立やボーナスから一定額ずつ貯蓄していくべきです。

こども保険や学資保険のほか、積立貯蓄などで準備している家庭が多いようです。しかし、高校入学時や在学中などに取り崩してしまったり、予想外の出費などに使つてしまつたりして、計画通りに準備できない場合もあります。

まずは今後、進学費用として必要になりそうな金額を前のページで確認し、今現在、準備できている資金はどれくらいあるかをチェックしてみましょう。

準備した保険や貯蓄で足りそ

うなら、そのお金は進学先が決まるまで手をつけず、しっかりと確保しておくことが大切。高校時代に必要な教育費は、家計から出す

一方、準備できているお金だけでは足りそくない場合、不足分はどれくらいかを調べ、これから貯められる金額を検討してください。

子どもが高校1年か2年生なら、実際に初年度納付金や毎年の学

**準備できない進学費用は
奨学金で補うことも可能**

これから準備しても進学費用にはとても足りない、家計から出すのも難しいという場合でも、進学をあきらめる必要はありません。

奨学金という制度があります。

大学等の在学中に必要なお金の半分くらいは準備できるけれど、全部は難しいという場合も、足りない分だけ奨学金で賄うようにすれば、家計からの負担はぐんと軽くなります。子どもにも話し、利用可能な奨学金を調べてみましょう。

実際に、今は大学生の2人に1人が何らかの奨学金を利用しています。そのうち大半の人は日本学

費を納める時期まで、結構時間があります。毎月の積立やボーナスから一定額ずつ貯蓄していくべきです。

高校3年生の場合は、これから貯められる時間が少ないため、入学手続き時に必要な初年度納付金だけは手元の貯蓄から取り分けておき、2年目以降に必要な分を少しずつ貯めることを考えましょう。

奨 学 金

●日本学生支援機構の奨学金の概要(平成31年度の大学生の場合)

給付型奨学金	申し込み先	高校等を通して申し込む。校長の推薦が必要				
	申し込み条件	大学等に進学を予定している人で優れた資質・能力を有し、以下のいずれかに該当する人 ・住民税非課税世帯や生活保護受給世帯の人 ・社会的養護を必要とする人(18歳時点で児童養護施設に入所していた人など)				
	給付月額	【国公立】 自宅通学 2万円 自宅外通学 3万円	【私立】 自宅通学 3万円 自宅外通学 4万円	※社会的養護を必要とする人は、左記とは別に一時金として入学時に24万円が給付される		
(予約採用・平成31年度大学の入学者)						
貸与型奨学金	第一種奨学金(無利息)		第二種奨学金(利息付き)			
	学力基準	1) 申し込み時までの評定平均値が3.5以上または、 2) 次の両方に該当する人 ・家計支持者が住民税非課税または生活保護受給している、もしくは社会的養護を必要とする人 ・特定分野で優れた能力を有したり、学習意欲があり、大学で優れた学習成績を修める見込みがある				
	家計基準 (4人家族の目安)	給与所得者: 年収747万円以下 それ以外: 年間所得349万円以下			給与所得者: 年収1100万円以下 それ以外: 年間所得692万円以下	
貸与月額	【国公立】 自宅通学 2万円、3万円、4万5000円 自宅外通学 2万円、3万円、4万円、5万1000円		2万~12万円 (1万円単位) ※私立大学で12万円を選択した場合、進学時に薬学・獣医学は2万円の増額、医学・歯学は4万円の増額が可能			
	入学時特別増額 貸与奨学金(利息付き)		申し込み条件 第一種・第二種の申込者で、低所得等を理由に日本政策金融公庫の「国の教育ローン」を利用できなかった世帯が対象	貸与金額 (一時金) 10万円、20万円、 30万円、40万円、 50万円		
申し込み方法						
予約採用 高校3年の春に、高校を通して申し込む方法。進学先が決まっていなくても申し込める		保証制度 ……どちらか選択して申し込む				
在学採用 大学や専門学校等に入学してから、その学校を通して原則として春に申し込む方法		人の保証 ○一定の条件を満たした連帯保証人と保証人が保証する制度で、保証料は不要(連帯保証人を親、保証人を親戚にするケースが多い) ○奨学金の返済を滞納した場合、連帯保証人や保証人が本人に代わって返済する義務がある				
		機関保証 ○保証機関が連帯保証するので、一定の保証料がかかる。この分は毎月の奨学金から差し引かれる ○一定期間以上滞納した場合、保証機関が返済してくれるが、その後保証機関より本人に請求がくる ○一度、機関保証を選ぶと、人の保証に変更できない				

●その他の奨学金

大学独自の奨学金	自治体の奨学金	民間団体の奨学金
成績優秀者や経済的支援が必要な学生に対して実施。授業料相当額やその一部を給付するタイプなど、内容はさまざま。 入学後に申請する奨学金のほかに、入学前に採用が決まる「入学前予約採用型給付奨学金」もある	都道府県や市区町村ごとに、その自治体に居住する保護者や学生に対して実施。条件や支給額、支援機構の奨学金との併用の可否はそれぞれ異なる	将来、社会や地域に貢献する人材の育成や、経済的支援を目的に実施。学校や学部を指定するタイプもある。種類は多いが、採用人数はそれぞれ若干名

生支援機構の奨学金ですが、大学独自の奨学金の種類も増え、民間団体や自治体の奨学金も多数あります。いろいろ調べて、有利なものから申し込んではいかがでしょう。

大学独自の奨学金には、出願時に申し込み、入学前に採否がわかる予約採用の給付型奨学金もあります。給付型の金額は、学費の一部や半分、全額などと学校や制度によって異なりますが、入学前に受給可能とわかれば、安心して申し込みることができます。入学後、学業成績などに応じて支給する給付型があるので、各大学のホームページなどは必ずチェックして。

日本学生支援機構の奨学金は、高校3年の春に在学中の学校を通して募集する「予約採用」で申し込み人が大半です。同機構では給付型奨学金も導入されました。日本学生支援機構の奨学金は、子どもに任せきりではなく、親子で条件などを確認し、申し込む種類や貸与額などを検討しましょう。貸与月額は学費などの不足するだけにすることがポイントです。それでも足りない場合は、教育ローンを利用するものが現実的。利率の低い「国の教育ローン」から検討し、借り入れは無理なく返せる金額に抑えましょう。

教育ローン

●日本政策金融公庫「国の教育ローン」

利用例							
入学時にお金が足りない ↓ 入学前に申し込み、入学金などの学 校納付金、住まいの敷金・家賃など に充てることも可能	融資額 子ども1人につき 350万円 (条件にあう海外留学費用は 450万円 まで)						
在学中に学費が不足… ↓ 在学途中、いつでも申し込み、授業 料、教材費などを補える	金利(年) 固定1.78%。ひとり親家庭、世帯年収200万円(所得122万円)以内、 子ども3人以上で世帯年収500万円(346万円)以内は1.38% (2019年1月17日現在)						
海外留学がしたい ↓ 6ヶ月以上の海外留学のための資金と して利用できる	返済期間 15年以内(上記の家庭と交通遺児家庭は18年以内)。 在学中は元金据え置きも可能						
	主な 借り入れ条件 世帯の年間収入(年間所得)が下の金額以内であること <table border="1"> <tr> <td>子ども1人</td> <td>790万円(590万円)</td> </tr> <tr> <td>子ども2人</td> <td>890万円(680万円)</td> </tr> <tr> <td>子ども3人</td> <td>990万円(770万円)</td> </tr> </table> <p>子ども1～2人は主に生計を維持 している保護者が、以下の要件の うち一つでも該当すれば、990万 円(770万円)まで申し込み可能</p> <p>①勤続(常業)年数3年末満 ②居住年数が1年未満 ③世帯のいずれかの人が自宅外通学 (予定)者 ④借入申込人または配偶者が単身赴任 ⑤海外留学資金として使う</p> <p>⑥借入金の返済負担率が年収の30%超 ⑦親族に要介護(要支援)認定を受け ている人がいて、介護費用を負担している ⑧大規模な災害により被災した人</p>	子ども1人	790万円(590万円)	子ども2人	890万円(680万円)	子ども3人	990万円(770万円)
子ども1人	790万円(590万円)						
子ども2人	890万円(680万円)						
子ども3人	990万円(770万円)						
その他	保証基金を利用する場合、融資額から一括で差し引かれる						

●その他の教育ローン

	融資額	主な使いみち	金利(年)	返済期間
ろうきん (中央ろうきん・証書 貸付型の場合)	最高 2000万円	・学校納付金、受験料 ・下宿の敷金・礼金 ・6ヶ月以上滞在の留学費用 ・予備校費用 ・奨学生の借り換え(団体会員のみ)	固定金利 10年以内2.4～3.4%、 10年超2.9～3.9% 変動金利 2.2～2.4%(会員のみ) ※勤務先が団体会員になっている人や、 生協会員の人は低い金利を適用	15年まで
銀行の教育ローン	最高 300万円～ 500万円	・学校納付金 銀行によっては、他行の教育ローン の借り換えも可能	変動金利 2～4%台が一般的	10年以内が一般的
学校提携の 信販会社の 教育ローン	最高 500万円程度 が一般的	・学校納付金(入学金、授業料など) ※信販会社が直接支払ってくれる	固定金利で、金利は信販会社や学 校によって異なるが2～4%台が多い	10年以内が一般的

※金利は2019年1月17日現在

夜間コースのことを知って 諦めていた私大進学が可能に!

高2で外国人と交流する機会があり、東京の大学で得意の英語を伸ばせる学部を希望していました。経済的に私大は厳しかったのですが、担任が夜に通うコースもあることを教えてくれました。学費は昼間部の半分近くで自己推薦入試だったため、そこを第一志望にして10月中旬に受験。合格がわかったときは、



東洋大学
国際学部国際地域学科
イブニングコース1年
M・Sさん(福島県出身)

親と一緒に抱き合って喜びました。負担が軽くなったため、初年度納付金や学費のほか、仕送りも月4万5000円もらっています。これに日本学生支援機構の奨学生の月5万円と、平日昼間のアルバイトの数万円でひとり暮らしは十分可能。外国人の友人もでき、今は充実した学生生活を送っています。

「できれば地元の国公立に」と考
えていても、子どもは仕送りが必
要な遠方の大学や私大を希望す
るなどで、資金繰りに悩むことも
よくあります。しかし、左の例の
ように思わず情報から進学先の選
択肢を広げ、希望を叶えた学生
もいます。学校や周囲の人々に相談
してみるのも方法です。

子ども自身が選択肢を広げ、
道を拓く方法もある!

あとで
慌てない
ために

入学前後や学生生活にかかるお金と考え方



●自宅生でもかかるお金の例

- 教科書代や参考書代
- 入学式に着用するスーツ&靴代
- パソコン購入費用
- 通学定期代
- 資格取得などの特別講座、スクール代など

●入学時にかかる住まいの準備費用

家賃	6万1600円
敷金・礼金	20万7600円
生活用品費	32万8300円
合計 59万7500円	

※東京私大教連「2017年度私立大学新入生の
家計負担調査」より

●ひとり暮らしの学生の1ヶ月の生活費(地域別)

●大学生の1ヶ月のアルバイト収入



※リクルートキャリア・就職みらい研究所
「大学生の実態調査2016」より

進学準備のお金も用意

入学手続きでまとまったお金を納めた後も、4月の入学までには何かとお金がかかります。自宅外通学になる場合は住まいを探し、ひとり暮らしなら敷金・礼金、学生寮でも保証料などの諸経費を納めなければなりません。住まいの準備には50万～60万円かかります。自宅生も含めて、入学式の前にはスーツや靴を揃え、パソコンを購入する人も多く、通学定期代や教材費などの出費が続きます。さらに、自宅外の場合は毎月の仕送りも考えなければなりません。学生の生活費は上図のように11万～13万円台ですが、仕送り額の平均は7万円前後。足りない分は奨学金やアルバイトでカバーしている学生が大半です。とはいっても、奨学金を受け取れるのは5月以降で、学生生活に慣れるまではアルバイト収入も多々は期待できません。1年目の夏までは家庭からの仕送りも多めに必要になりそうです。大学生のアルバイト収入は月3万～4万円程度の人が多く、実験的、実習などが多い理系の学生は文系よりも少なめ。こうした状況も理解して、進学費用をどう準備するか、家庭で話し合っておきましょう。